



# 曲亭 翁編 次八 犬傳 第九 輯

柳川重信画

狗寶 又ヌノ



南總里見八犬傳第九輯下帙之上附言

有人云在昔里見氏の安房小起りて後上總を略し又下總をも半分討從り有  
れ安房の小園を其發迹地とて今も世の人推並て安房の里見といふも  
然と更の這書の名につて南總里見とを便是本と捨て只その末を取ら似る故ある  
いふとと詰問れ予答て云否子今論するの後の稱呼は從のこ上れる代の制度考  
る安房の素是總國の郡名之邈古天富命更求沃壤分阿波齋部率  
往東土播殖麻穀好麻所生故謂之總國上總下總二國是也  
阿波忌部所居便名安房郡國是也と古語拾遺の古事記並書紀  
景行紀の東の淡水門を定めりて是且景行五年冬十月天皇上總國到  
る淡水門を渡りて是より是を元正天皇の養老二年五月乙未上總國  
は平群安房朝夷長狹四郡と割く安房國と置りて聖武天皇の天平十二年十二

月丙戌安房國と元のどく上總國を併せぬはかくて 孝謙天皇の天平寶字元年  
五月乙卯安房國舊來依々分ちらるる。書紀及續紀に於ては皇太子の  
安房と上總と二國を論ず。安房も初に總國に當時里見氏の威徳と史料を土  
人相傳へてその封域といふ者二百二十七萬石と云房總志料第五卷安房の附録は是を  
不中々里見九代記に據るる里見の領地の義堯より義弘迄八所安房上總並下總  
半國是を加ふと浦四十餘御あり此彼を合しても七十萬石の尙元ざるは土人の口碑に傳  
る所何れも本邦に於ては然といふ。維七十萬石元ざるも大諸侯と稱するは只然れば起  
本の國といふもかくの如し小説に編小の安房と云。里見の二字は冠するべからず又房總と  
倡へるは浦四十餘御あり因て南總と云ふは地廣大に相聞を唯上總の限あり  
らむ。這書に載るる里見父子の賢明當時の雙れは南方の藩屏第一の大諸侯と云  
よと看官のめがけんとす作者の用意素もかくの如し知を僻言するんか。

本傳第九輯の初の腹稿より卷の數の二と云々より第九十二回より第百三回ま  
の六巻と九輯の上帙と。第百四回より第百十五回までの七巻と中帙の上下と。  
今板第百十六回より第百二十五回までの五巻と下帙の上と。是より下も尚物語  
ヲ復し亦復十巻と兩箇を登て下帙の中下帙の下とて明年二度の續出にべし。  
八犬士及八犬女の端像 俗名是を 第二輯三輯より再々是を出して今は遺漏す  
といふも或は総角の折の姿と寫し或は微賤の折の趣あり。其真面目と云ふは  
足らぬ。今又是を出せり。あはれも惟伏姫の生前死後の神體まで曩の端像小  
出あり。又少省は七犬女と重出を中濱路沼苗雜衣の既鬼籍の入り。これの  
その墨色と異ふ。綉像同からべし。又彼神女の贊詞の如し。琴籟君子の麗藻  
あり。因て、大と贊を五絶と俱ふ亦簡端の餘紙に録し。  
天保七年丙申秋九月下澣立冬後の一日 菘笠渙隱識



南總里見八代傳第九輯下套上摠目錄九集第  
三版

卷第

第百十六回

賢士重知犬士  
政木肇詳政木

之四

第百十七回

答恩化龍示升天  
問津犬童惱風壽

卷第

第百十八回

兩國河原南客逢北人  
千三三畷師弟屠姦媼

卷第

第百十九回

說來路次團太附驥尾  
盡餘談親兵衛促扁舟

卷第

第百二十回

傳命令使臣正征伐  
庸一葉窮士償前愆

十六

第百廿一回

天資神祐劈石門牢戶  
大江親兵衛破魔夷賊

卷第

第百廿二回

讓勲功親兵衛赴法會  
後賞祿安房侯温寒御

十七

第百廿三回

小乘樓一僕謁故主  
大庵十僧資法筵

卷第

第百廿四回

守師命星額齋遺骨  
受殘捨癘僧告禍鬼

十八

第百廿五回

逸正寺德用與二三士謀  
退職院未得名詮諫不得

八代傳第九輯下套上目錄終下套中下二帙陸續刊行



幼稚義村莊義心凌毒未  
泥市土耀人口 質太川義任

依義失雙實  
逢靈全兩英  
誰知仙境任  
花樹受恩榮  
質音音

音音  
かと松

大川義任  
かた松



磨劍不忘親寬仁王  
佐器堂好男子到  
處伏新吏  
質天塚成考  
寒蟬懸蠟網新月落  
圓陵更託同名女貞  
魂結赤繩  
質濱路

前後而濱路  
かた松

天塚成考  
かた松

六代信九郎元三

六代信九郎元三



越赴忠魂子積年凌百憂  
英風誰敢敵一箭貫金兜

變姿知幾處智勇最  
冠州牛閣返重恨鈴  
森討久雙贊大山  
忠與大坂亂智

大山忠與

（大山忠與）

大坂亂智

（大坂亂智）



劍法阪東一勇威  
不可當拾骸庚申  
嶺補孝赤岳鄉  
贊大飼信道

一時離而羽恩惠  
六年間歡喜且憂  
苦共維倚富山  
贊妙真

大飼信道

（大飼信道）

戶山妙真

（戶山妙真）



馱馬倒山路姊妹咫尺間  
若非神妙助爭得到仙寰

又  
仙山逢舅姑夜  
徑見古丈姊妹  
依神助相得  
鳳雛

十條力三郎

曳手  
ひくく

單節  
ひの上

十條尺八

八代傳九郎卷三十四

六

文樂堂藏



一拳撲野豬雙手  
駐物拈謙遜不曾  
誇其名轟世界  
贊大田悒順

心血成良藥眼前救一雄悲風花落  
處不料得神童 贊沼蘭

沼蘭  
おの

大田悒順  
おの

山林  
おの

八代傳九郎卷三十四

文樂堂藏



鍾動從猛物 為淚滿 羅裳花  
 亂富山雨落 英蓮八方伏里見  
 攝統却成華 法衣長 避俗歷  
 遊二十年 終總八行 玉法師大  
 右抄贊一十七首 叨題奉 攝簡端以  
 款於四方 君子雅鑒

琴瑟埤史



南總里見八犬傳第九輯卷十三之十四

東都 曲亭主人編次

第百六回 賢士重々大士と知る 政木肇て政木と詳む

再說大江親兵衛仁の尺中も足る及鐵扇とて河鯉佐太郎孝嗣が最も劇しく較ぶ又  
 尖と受流一相柱を挑戦ふ至妙の武藝不孝嗣秘術と盡せも毫も差違はらざりしが  
 憶中も聲と被て登り少年姑且昔ね問をありと叫び身と跳りて圍籠の外退き喘を  
 定め刃と鞭不斂も親兵衛莞尔と立ち笑ふ思ふに優る和殿の大刀筋何とぞ雌  
 雄と決せると問はれては是れとよ和殿の為体人を揃りて貨財と奪ふ騙見るとは  
 必是响馬前刃徑と事とせる又那麻生の松孺の亞流るんとありとて較み果さず欲  
 甘み聲力凡庸をむして矢庭に我身と換換と投石も奪い奪の勢ひ世も少えり村上義

光妻鹿孫三郎と云ふ。及ぶ加旗武藝精妙絶々數寸の扇子を以て我大刀風を扇返す。神術奇特の事上奇に和殿の懐より一道の光明赫奕と閃出づ散徹あり。只我眼と遮りてかば。朽惜くも腕見狂ひて大刀筋安定る所れ心驚駭に訝し。徳ハ刃と歇めり。意不和殿人倫を奪ふ。奮我死を救ひ給。箭の刀身の等類狹權者の化現狀狽狸妖怪怨念の解は甚摩を云。同ハ親兵衛うち領を疑ひ然る事。酒家の妖怪変化する。実を諦せ和殿等一途窮達不定の孤客。這頭と遊歴あるもの。我名ハ酒家の和殿が相識者。毛野道節節の七武士と。同因果の義兄弟。大江親兵衛仁と喚做も。今茲九歳の総角られも。童年才小四の秋より。伏姫神の擁護より。安房は富山の神崇崇人となり。甲斐業あり。心術支身長き見ゆる像大人。備く。文学武藝も。姫神小侍授せられ。然るるの本事をあはれ。料もぬ。比世の復出は時を以て。國王御父子の奉為不寇と夷け敵と降あり。その功より。寵用せ

上總の館山の城を以て隨預けられ。故ある事。幾日もあて君の丸見妙なる。自餘の武士の在処と索り。一個も送る領て来よと。猛可身の暇を賜りぬ。我も亦同因果の義兄弟先立ち。單國主は仕ると本意を以て思ひ。一談小及ぶ。領當り。多伴當り。一個も俱せ。投方とて赴く程。則一月の旅。けし。這頭。來し。上野の松林陰る。茶店の一霎時立寄り。疲勞と憩へ。里人る。群立走。前面岡より頭を敷る。那罪人を以て見んと。慌く相罵。ある。思ひ。茶店の老媪。所以と問ひ。老媪の答の詳。刃心固る。城内の機密を送る。告され。然るも酒家富山より。伏姫神の示現より。和殿親子の忠誠孝義と。知ら。下。今又老温が所。具より。酒家悄悄地。那孝嗣が忠孝。曩高。暖の對陣。道節毛野們感嘆して。刃と交を相別れ。慨。侮人們。誣ら。罪る。取罪。命と殞。死。憐む。猶餘りあり。非如我這身。其死。極

かまも切々首級と大尊命を。選佛場へ葬らる。亦武士の情のそと尋思とある。遠  
あつて儘茶店を去り。前面岡はまき相ま。既小刑伐の折と成りて和殿と布草の  
上小牽居る。身邊は実檢使あり。竝大刀命の武士あり。他們は老嫗の知  
た。刃心岡の城の頭人根角谷中二麗麗と穴栗專作あり。と猜せらる。大の餘幾十  
個の雜兵四下と守護。專非常と警めらる。後方の連の岡あり。樹柵隙る。成平  
あつねの件の樹蔭は身と潜し。事の容子と偷看あり。小觀目不樂し。和殿の終  
焉。白刃既小頭上は益め。胸の裏胆冷て。揉み袖もる。折る。幸いなる。越路より。長  
尾家の老夫人當所へ發向のゆえあり。争々轎子と寄られて。遂小和殿を救ひ合ひぬ。  
理非明辨の談精妙。故馬奇雀躍愉快の光景。況る。時宜なる。一々麗麗  
り。みる。あつて。那大刀自の両刀を和殿小合さる。一の觀し。怪し。幻也。其里小在  
てる。箴大刀自最ヨリける。伴當さ。瞬息間小在る。事の奇瑰。小月潰

とく出のゆえ。竊觀一。和殿も酷く驚かす。修々と單語。且溪草の方へとく  
快立去ま。せれ程小酒家情地と思ひ。那孝嗣の智勇の健雄。毛野道節們  
と相識する。親子の忠誠。その甲斐も。僅は死罪と免れて。萍跡浮浪の人とあり。と  
我君侯は薦めま。里見の家臣小做ま。萬卒小倍く。憑か。人る。ま。と  
ゆま。本事と知ら。銚。と。尋思と。和殿小先。ら。同道より。情地小走りて  
這里小在り。像の如く。討較。聊試。たり。ける。小。尚。凡庸の浪人。る。我懐る。  
財囊と相。正る。心を發せ。死。一。所。不住の浮浪の其身。小。鏢一文の盤纏。る  
けれど。然。こ。小。楓念。せ。酒家。と。路。小。倒れる。病者。る。と。憐。思。ひ。て。啜。活。も  
る。不。届。の。小。介。保。せ。んと。る。を。楓。れ。清。白。仁。慈。の。心。操。君子。り。と。知る。め。武  
藝の利鈍を。撈。え。為。小。陽。暎。多。く。下。小。投。れ。多。く。跌。倒。れ。多。く。刃。を。抜  
晃。ゆ。り。七。數。る。果。さん。と。挑。ま。け。大刀筋都。法。小。稱。ひ。て。一。人。當。千。の。多。段。る。死。小

わび武藝の程を知らし上り見殿へ汲引せん外を求るといと意束と告て慰れは  
 孝嗣深く感佩しと然る天々るる四下とるる聲を惜めて原来和殿の大匠們  
 那七勇士と宿因ある大江生であつてける那八人の義兄弟八名ありとぞ高嶮の  
 對陣子大塚生きたる虧れ和殿の上の沙知らざりし神の擁護の靈山にて生有ゆれと  
 少く思ひ合する奇特の靦面今茲九歳の総角とて誰う知る身長と心術と  
 大人備て智略勇力武藝まで現神々々鳥傑今昔を雙とらるる神靈傳授の  
 大刀筋るる敵かたも然るとなる方僅刀と合せ折奇れ和殿の懐より光と發ち  
 粲然と我面を撻けるは必是所以ありとんと親兵衛うち所々疑ひも鮮易り我  
 黨なる八犬士の自然と獲る靈玉ありと八顆の玉母の仁義礼智忠信孝悌這  
 八行の文一字あり天造地作の寶貝ありと厄と釋は雙と征する第一の身の衛るは  
 優るものあり就中我持る至り仁の二字あり仁と名告るもこれ由り量る富山と

折獨館山の城不赴と逆將墓田素藤と生拘ら凶徒を降し城を拔れ我靈  
 玉の威徳ふれり信れ和殿と挑し折の自然と光と發ちるる速莫館山の城を  
 ありと那兇黨が降伏の為と告るる追わとて言詳るるゆれとるる思  
 れ又只我上のるる七犬士們が才幹言行安房侯老候御父子の明德賢と愛し民を  
 極善政限るる施しあ賢君良佐の事の崖略伏姫神の靈驗威徳の世も復ゆる死  
 奇談も鮮示さす思へも這里久恋の園ありと卒の上野の原まで退て送る意  
 衷と盡まべるといふ孝嗣再議を覃を現るるれがその理あり物蔭も死這池畔  
 多く長譚小時を程さる谷中二們が稍醒と立ちあ争何せん非如そのあふとも  
 忍心固るる遠くは一步も快退くと上策とま死の卒さくとも連立と上野の原不  
 求しけれ親兵衛遙指して河鯉生よ那尼の那老松を片食りて建ふ葭箒を折  
 遠くまの嚮し我憩ゆる老媪の茶店でゆるる和殿の身の皮の囚牢衣を去向

外視宜かき。今日殊ゆる温暖るれば。我下衣の一箇脱く。裏て腰の纏るあり。且  
 那里より。あをまわらせん被ぬのま。とふを孝嗣とて。そち又ぬく好意あり。  
 知己の隨意せむ。と然ひ答く。共侶の茶店の茶店。それの意の蒼柴烟の立  
 ども。何地の火けん老媪の在る。然るに。外亦媪の家の。一垂時等る。  
 かの来てんと。思へ。兩個の後生の。儘裏面入。折る。由。葎實を掖送り。外  
 視之。憚る。目柴の。俱。茶を汲。ち喫。親兵衛の腰の附。袂裏。ち被。て  
 衣。合。出。て。孝嗣。卒。と。遞。與。其。孝嗣。の。受。合。ち。ち。戴。せ。多。く。上。は。襲。被。く。身  
 装。を。あ。れ。ども。あ。の。老。媪。の。も。還。る。ね。ば。そ。儘。登。見。尻。と。楓。て。親。兵。衛。と。俱。媪。ひ。く  
 在。り。登。時。大。江。親。兵。衛。の。孝。嗣。の。ち。向。ひ。て。御。言。話。漏。た。る。身。の。禍。福。伏。姫。神。の。眞  
 助。撫。育。并。お。姥。雪。老。夫。婦。曳。る。單。節。母。子。の。事。及。七。犬。士。の。事。の。趣。の。裏。の。姫。神。の。告  
 られ。と。听。り。隨。一。事。の。省。ふ。且。里。見。殿。父。子。の。賢。明。四。家。老。諸。勇。臣。の。行。状。得。失

素藤が叛逆の顛末まで。その要の演敏系と。其の箇様々々と。情語は。示せ。孝嗣を  
 听。毎。小。連。の。感。嘆。の。聲。を。沿。断。む。憶。も。太。息。を。吻。く。連。愛。は。諸。犬。士。の。孝。義。英  
 才。始。在。下。君。父。の。與。大。阪。生。を。恨。む。お。の。僻。事。と。悟。り。より。更。不。捨。せ。死。思。ひ。あり。  
 矧。今。又。その。義。兄。弟。大。江。和。殿。の。解。近。し。く。お。の。身。の。資。助。も。る。り。過。世。あり。歎。息。中。奇  
 り。任。ち。八。個。うち。揃。い。ぬ。焦。問。傑。連。は。宿。縁。あり。君。臣。の。義。と。結。ば。せ。る。里。見。殿。而  
 侯。の。年。來。の。德。澤。仁。政。听。く。宗。治。り。死。名。將。も。う。ぬ。羨。む。べ。し。う。ち。お。の。心。と。只。管。嘆。賞。せ。た。れ。ば  
 親。兵。衛。の。聲。を。惜。め。て。御。向。中。も。既。に。い。け。し。我。君。侯。の。賢。を。招。れ。士。下。り。ぬ。べ。し。と。老  
 殿。の。死。時。より。登。崎。十。一。郎。照。文。と。喚。做。を。家。臣。を。関。八。州。遣。し。智。勇。全。備。の。士。成。を。と。く  
 招。い。ぬ。い。ぬ。折。大。塚。大。飼。大。田。の。下。総。を。行。徳。あり。大。法。師。と。十。一。郎。思。ひ。ひ。ち。相。遇。す。て  
 里。見。殿。の。息。女。を。伏。姫。上。の。犬。士。の。與。過。世。の。母。と。り。ゆ。れ。と。料。も。曉。得。る。首。の。徳。を  
 る。と。八。房。の。犬。の。事。金。碗。入。道。の。事。及。親。兵。衛。の。二。親。の。義。俠。横。死。の。事。ま。で。も。詞。急。迫

多く解示せし孝嗣の感嘆して咱們扇谷家不在の一日の奸黨を仇と忘れて一個も知音の  
友をり一の高嶽の軍陣を大阪大山両勇士の意衷と始々聞きし。冤家なきも心似たり。  
知己へけりと思ひ今又和殿の語説を九人を知る不足れり。その水原と尋ねば姫神孝  
義の英烈より自然と生れる八個の豪傑里見不出で里見小仕る宿因定は主次びへ。安房の四  
郡小過ぎれども偉きもの造化の妙功八顆の靈玉八個の良臣身と護り君と補佐して武威  
八方小赫亦久後までもと憑心感心の外はとと繰返へ。心誠を親兵衛とて慰  
めて思思れる他を求め里見殿小仕る酒家一尺の書とてめらぐ。和殿と薦めまう。必  
必登用せらるべし。安房へ赴かぬ。孝嗣沈吟とて。非如不徳の君も  
扇谷家の父祖の時より恩顧重代の主君より。今日死刑と免れり。それより他姓小仕る  
及び死所あり。願ひ和殿の従者と做りて。その扱ふ不伴れ大阪大山自餘七個の士達小對  
面して。和殿と俱に那人々の安房小参り。仕る後まを幸ひて。母果れれば我身吹擧小

預る。左も右も音意小依。目今に従い。と答る折々。覺然とは。這方と投て来る  
者あり。此は是別入る。ま。這茶店の老媪を。これ。孝嗣が引続ら。一段筆見とて。ま  
推啓して。找入る。親兵衛們。見々含笑と揖讓して。ま。郎君前面岡より。剛才か。東  
ま。甘く欲奴家の所要の。小喚れて。宿所へ。走り。程店うち。空々。ゆり。小好。ま。せ。あひ  
たれ。兒連さる。茶と。召れ。欲先沸ら。て。ま。あ。せん。と。い。吹笛。會。拵。埋火。撥て。吹起。せ。寃  
木の煙立。井る。雲。霧。の。離。色。小。白。菊。の。衰。易。風。情。を。老。媪。と。孝。嗣。は。と。相。々。親。兵。衛  
が。袂。を。掖。て。大。江。主。那。と。ま。あ。ま。那。老。媪。が。面。影。に。御。小。我。が。必。死。と。救。ひ。假。大。刀。自。小。よ。く  
肖。り。尙。その。人。小。あ。ま。ま。と。う。ち。耳。を。指。さ。示。せ。親。兵。衛。も。稍。心。を。現。い。る。れ。が。聲。音。ま。ま。  
毫。も。錯。つ。ま。是。小。似。り。故。を。ま。ま。の。奇。と。潛。語。く。鼓。耳。の。ゆ。え。小。け。ん。老。温。の。徐。小。ま。ま。刀  
の。し。も。祿。連。ま。ま。で。お。訝。り。あ。る。前。面。岡。を。河。鯉。手。の。危。命。と。極。合。り。の。別。人。あ。る。奴。家。小。は。り。の。小。小  
孝。嗣。の。親。兵。衛。の。胸。に。潰。ら。さ。せ。と。なる。呆。れて。為。も。長。視。て。在。り。と。老。媪。は。さ。と。微。笑。く。

八代專二耳宗三十四  
十三  
大坂堂表

大江王は遭際初の對面は知らざる理の河鯉腕子名をりたも所知くも  
 孝嗣家の政本は侍るか。名告れど孝嗣たるは作麼政本と誰るん。訝り向ひ城  
 近に登見小尻より櫃て原來忘れぬ。然れども具小告まらん大江王も所知くも  
 思ひ出らるる奴家の奴身後の娘母後の政本は侍るか。孝嗣を極く悟て原來我総  
 角の比大人の夜話小侍する故る影と躰を娘母政本に侍れども。什麼思ひはる再會  
 点頭。又孝嗣向ひ向ひ。喃和子這回奴家。奴身と救ひ。事の情と今ゆる。説明さ  
 恥く面をた所は侍れぬ。奴身の未生以前より奴家の忍岡の城内に。牝牡栖馴る野狐  
 老ふ奴身の年二才の比奴家有身侍り。とある。孝嗣は奴身の養父。權佐守如大人。素素  
 忠義の士。當時忍岡の城預の頭人。とせり。那城内に在り。又奴身の奶も慈悲深  
 く物を憐む本性なれば。馮心く思ふ間奴家牝牡の家。富來て篋子の下小栖れ。人小見

られ。知れぬ。奴家の開里を子と産む。の時又河鯉腕子の若黨。榎田和奈と喚做す。あり  
 その性酷く。殘刃心。殺生と好む。その年奴身の養父守如大人。君命よ。京都將軍家  
 使使小立ぬ。小那和奈云。政本と喚做す。奴身の娘母と幾の間。秘密通とあり。く。折  
 病を推けて。主の伴立。さ。小程。我雄狐の奴家。與小食物。求小夜々外。小。有。一。日  
 件の和奈云。釣溪の地龍。と。空。合。ると。心。と。も。る。庭。小。印。と。狐。の。足。跡。と。見。出。し。と。這。足  
 跡。猫。より。大。に。く。狗。より。亦。像。小。へ。這。頭。は。狐。の。穴。あり。と。開。か。通。ひ。路。を。と。お。う。ん。と。め。と。尋。尋  
 思。と。考。ふ。その。日。の。ゆ。飲。鼠。と。麻。油。を。煎。く。甲。夜。より。庭。小。涼。を。掛。け。小。我。雄。狐。を。相。て。涼  
 け。と。知。る。め。う。香。生。の。悲。し。け。の。香。小。掖。と。心。感。ひ。と。慾。を。禁。む。と。要。せ。ま。終。に。涼。を。掛  
 られ。命。と。開。里。を。預。け。り。小。程。小。榎。田。和。奈。云。揣。り。と。く。狐。を。合。獲。て。その。穴。を。う。ち。咬。ひ  
 皮。を。售。れ。も。う。得。飽。を。狐。の。穴。の。あ。べ。と。情。々。小。未。獵。る。程。小。我。子。狐。の。穴。小。在。り。と。鳴。聲。を  
 洩。す。て。原。來。の。篋。子。の。下。小。栖。る。狐。の。穴。の。あ。り。獵。出。し。射。て。合。ら。ん。と。罵。り。噪。て。准

備を考へて。おん身の奶々の事知りぬ。うち教馬は。和奈三と口よせ。よと向ふ。和奈三懸まをぬき。いふ夜庭。和奈三を措て。簀子の下。小栖ひ。和奈三を捉獲する。夏之趣を招き。けい。奶々のいふ。腹立ぬ。ひて。そを。輕く。ぬ。曲事。我良人の性として。慈善と旨と。いふ。其最介。も。虫と。も。故。殺。いふ。と。あ。況。當所。の。鎮守。の。神。妻。恋。稻荷。を。御座。其。狐。の。要。ある。獸。也。且。その。狐。を。捉り。宵。河。鯉。氏。の。先祖。の。忌。日。の。速。夜。中。も。丁。まる。不。簀。子。の。下。小。栖。狐。の。あり。と。知。り。主。より。告。げ。傳。恣。る。殺。生。の。言。語。同。断。と。い。つ。折。り。我。良。人。の。京。上。の。留。守。る。一。家。見。る。僕。従。の。い。ふ。至。重。を。考。と。京。家。守。ま。る。我。怠。慢。と。發。憤。ら。せ。ぬ。ん。信。鳥。許。の。波。黒。見。の。今。よ。の。後。使。ひ。か。り。大。父。耶。の。か。へ。の。自。ま。速。下。宿。と。慎。く。沙。汰。と。等。下。と。思。ひ。隨。小。叱。り。懲。り。と。子。舎。不。退。け。屏。居。ら。し。和。奈。三。保。人。某。甲。と。召。来。し。仔。細。と。示。し。と。那。身。と。預。け。遣。い。ぬ。い。信。の。一。程。小。乳。身。の。奶。々。の。奴。家。母。子。と。憐。み。ひ。て。這。城。内。の。岡。も。あり。林。も。あり。その。狐。の。牝。牝。の。家。の。簀。子。の。下。小。栖。ひ。所。

以。小。牝。狐。の。委。斬。の。人。の。多。小。牝。狐。れ。可。惜。命。を。預。け。たり。牝。狐。の。む。る。ぬ。れ。その。牝。狐。の。子。を。養。ふ。よ。さ。さ。る。便。り。く。哀。し。く。め。日。毎。は。食。と。與。よ。と。心。術。素。直。る。奴。婢。不。信。と。吟。吟。と。或。い。餅。赤。豆。飯。油。敷。の。豆。腐。魚。を。と。を。簀。子。の。下。小。栖。ひ。ぬ。日。夕。小。賜。ひ。ぬ。奴。家。の。夜。多。く。外。出。て。求。食。る。不。及。む。飽。ま。ず。乳。汁。も。卓。散。ん。け。れ。子。を。養。ふ。便。り。を。ぬ。る。も。皆。日。走。奶。々の。御。恩。を。侍。れ。ぬ。と。奈。く。思。ふ。も。恨。め。ぬ。只。和。奈。三。の。三。然。れ。と。他。の。心。猛。く。殘。忍。を。斬。の。果。を。男。を。れ。令。命。を。果。さ。ぬ。術。と。施。ま。す。も。あ。ら。ず。誰。何。せ。ま。し。と。思。ひ。不。堪。々。四。五。十。日。と。歷。は。程。小。守。如。大。人。の。恙。多。く。華。夏。より。か。へ。の。ま。ま。し。て。返。命。を。ま。う。い。ぬ。ぬ。お。ん。身。の。奶。々。の。折。小。栖。田。和。奈。三。の。事。の。趣。を。守。如。大。人。不。報。ぬ。と。大。人。の。听。け。點。頭。と。和。奈。三。の。謗。第。一。の。ら。む。その。心。術。良。し。ぬ。お。ん。身。の。暇。と。取。り。せ。ん。と。思。ひ。つ。る。果。さ。ず。死。惜。む。ぬ。者。を。と。と。預。置。せ。和。奈。三。の。保。人。を。召。来。せ。し。家。風。不。背。け。他。が。越。度。と。信。と。皆。知。ら。し。と。那。身。の。暇。と。取。り。ぬ。信。而。又。日。數。と。歷。く。我。子。の。既。小。乳。を。離。れ。て。稍。大。に。な。り。し。他。の。野。山。遣。



八代傳九郎卷三十四

女

文楽堂藏



八代傳九郎卷三十四

文楽堂藏

多く身單故の穴在り。程小和奈云。主家小在る。より。母情慾の方方  
 ければ。惜地小政木小艶翰とをり。謀合ら。夜小紛ま。誘引せ。走りおけり。朋輩の  
 奴婢們ど小井と知れるものより。小奴家をり。豫より。信らん。猜たり。這時然。復さ  
 る。孰の時を期と。思ふ。當晩和奈と政木が。迹を跟て。行。小十住より。去向遠  
 ぬ竹塚の邊。和奈云。乾小父の。莊客あり。那里と。憑。姑且。身の。艱。小ま。と。開  
 方と。投。く。を。奴家。途。迷。瀧野川村へ。掖。て。来。る。左右。問。る。細。路。を。奴家  
 前徑の山家。小化。て。他。們。が。前後。より。兩。個。と。を。立。頭。れ。盤。纏。と。渡。與。せ。と。喚。被。さ  
 引。拔。れ。詭。き。刀。の。光。小和奈。三。政。木。の。吐。嗟。と。叫。び。路。と。討。め。く。逃。ん。と。る。步。下。暗。小。篠。原  
 折。る。月。の。雲。小。没。て。黒。日。と。別。ぬ。男。女。と。く。急。流。名。高。石。神。川。の。岸。踏。崩。一。滾。落。く  
 浮。り。沈。る。流。れ。が。俱。小。溺。れ。て。死。お。けり。信。て。も。奴家。の。月。屬。の。怨。復。ま。と。ゆ。心。小  
 快。り。か。も。政。木。が。在。る。と。さ。り。よ。り。生。死。婚。母。と。隸。ま。る。が。和。子。の。必。面。嫌。い。あ。て。その

乳を輒く喫あり。然るに和子の貧孃の心苦くおなま。是より五疳の病ると引出  
 ま。争。何。せん。和。子。の。奶。々。の。お。好。意。を。我。子。の。安。く。生。育。小。今。その。報。と。せ。む。あ。く。恩。と  
 思。ぬ。め。の。似。たり。子。母。の。大。泣。う。り。か。ど。乳。汁。今。る。餘。滴。あり。と。絞。れ。ば。出。る。か。今。宵  
 政。木。が。逐。電。せ。よ。人。の。知。ぬ。を。幸。ひ。せ。ん。術。あり。と。尋。思。く。その。曉。天。小。心。固。の。城。内。小  
 今。来。く。政。木。小。変。り。と。和。子。の。臥。簾。小。添。乳。と。あ。つ。臥。たり。けれ。東。人。御。夫。婦。い。へ。あ。ら。う  
 一。家。兒。の。奴。婢。們。誰。も。か。も。政。木。が。逐。電。あ。る。と。知。る。況。和。奈。と。共。侶。小。石。神。川。小。滾。落。て  
 底。の。水。屑。小。り。あ。ら。う。と。後。ま。で。告。る。め。る。けれ。奴。家。と。直。真。の。政。木。小。あ。ら。と。知。る。め。絶。て。さ。り  
 け。り。信。而。次。の。年。お。身。の。奶。々。の。血。塊。の。病。着。重。り。と。臥。ひ。り。よ。り。鍼。灸。茶。餌。の。效。驗。を  
 く。約。莫。半。稔。有。餘。あり。竟。小。身。故。り。の。い。ぬ。奶。々。亡。る。り。あ。い。よ。り。和。子。の。奴。家。を。菓  
 ち。離。れ。ぬ。と。放。ち。も。甘。を。恩。愛。既。小。庸。常。る。ね。我。実。子。の。思。ひ。と。做。り。守。字。む。と。又。一。稔  
 有。餘。和。子。の。五。才。小。り。あ。い。け。る。夏。の。日。の。ひ。ち。南。向。の。小。坐。席。小。奴。家。小。和。子。小。添。乳。を。去

怪しと思ひぬけん次の間お在り大人を連れ喚立りて答々とは是商せ波女が顔の狗  
 児お作り作りし肉せせと喃々と喚多聲の奴家が宿耳お入りか駭た覺て二雲時堪も  
 鈍まや我れ我が本形と頭けりと思へる倭庭門より走去りて竟お還らざれも別の悲し  
 けし日の暮春々まで前栽る樹蔭お躲れて泣く存り守如大人も件の奇異を商しられん  
 敬馬は怪しめんと大さるるば原來政木の野執りしとの年來知むと我子と字育せて悔  
 まければのゆゆき人知るか武士するゆが畜生の乳もてその子と育せけりといわれん此上る蓋  
 るの秘よ口外まじまじと奴婢們と緊しく敬言めくその明日の政木が保人某と召よせて昨  
 日政木の逐電をり然とて另お犯せる幸なり往方と来て見出るおおて来よとの言示して  
 この餘の及お及れ志和子の五才おありぬか母もておあべとく老女と守不隸あひが久後  
 我子の與るれとて人薦れども後妻と娶らるる鰥夫で在りし今程おの年々奥隸の

老黨某丙病死ければ扇谷殿守如とて開き迹役も成しぬ是より守如大人の五  
 十子の城お召れて那首お根り住めぬ家の情々も和子と見ま欲まる小路近うねと思  
 む不儘せを不娯しき涯のりりかお忍圖を立去りて上野の原お獨居りし時奴家お  
 中身お幸ひ命長くと數百年と歴れども靈氣もるる死功德をれば通力も亦疎ゆる  
 壯の残忍の人お殺され我の幾程おゆるそその死と復生折説いたるも下と下奈三  
 政本と害せしめわらぬ遮莫不良の人とも世萬物の靈々下と下身お畜生を仇と  
 謀りて積死地お陥れり人畜尊卑の差別を思ひ對心の義をりて志願成就の日ありと深  
 さんや然が神も佛も憎るる我身も天の眞罰怕るる焦も罪障重けれ今より  
 幾層の功德と積り世の為又人の興お慈善と音とせおあふ志願成就の日ありと深  
 念の膺と固めおけりあふ上野の原お昔より一人鶴お死出茶屋さとのあをまけれ  
 三伏の最熱した日又去冬の寒け時旅客寒暑堪難て死に至るもの言はれぬ

故の奴家の老媪（おきな）も来り。ここに茶店と置り。往復人の便りも。年米あり。けり。然る日毎に獲得茶銭（ちせん）の目見或は寒民の餓（うへ）を施す。又這頭溝壑梁の朽損（くしん）を修るの便を。奴家情地（じやうぢ）獨木と架す。人の便宜（べんぎ）おせざる。或は男女情死（じやうじ）を制め。意見（いけん）を加え。怒を諭して。故收り。由勘（ゆかん）を或は困窮至極（こんきゆうしごく）と。猛れと欲する者。身（み）を淵川投（ふみ）んと。身を救ふ。銭を取す。且生活の便宜副誨（べんぎふくゑい）を。宅着（たくちやく）と養せ。六夏を轉（まわ）す。歡びと做す。由より。病奴家。這陰徳を思ひ起（おもひおこ）ける。その日。今お迫（いまおせ）て二十許年。人の必死を救ひ。九百九十九名お侍（さむらい）の。天意（てんい）稱（な）ひ。故於身毛年々（こゝろみねんねん）守り。その清純と雪の像（よう）。尾（お）も亦裂（さ）れ。九尾（くお）も亦世の九尾（くお）の狐（きつね）。近世の似而非物語（にせひなはなものがたり）玉藻前（たまもゑ）事（こと）の。皆惡狐（みなあくきつね）との思（おも）ひ。井（い）の甚（し）た。訛（し）れ。九尾（くお）の狐（きつね）の神獸（しんぶつ）。又九尾（くお）と稱（な）す。瑞應編（ずいおうへん）の明文（めいぶん）。段成式（だんじやうしき）が酉陽雜俎（うしやうざく）の天狐（てんこ）。九尾（くお）の狐（きつね）。日月宮（にげつぐう）の来往（らいわう）。陰陽（いんやう）洞達（どうたつ）。千里外（せんりゝ）の事（こと）。知る。天眼通（てんげんつう）。ぬる。の。奴家も修行の功德（くわんとく）。因（よ）て。稍（しよ）の。數（かず）。入

る。あ。あ。ん。白毛九尾（しやくまうくお）の形（かたち）と備（た）天眼通（てんげんつう）。ぬる。の。奴家も修行の功德（くわんとく）。因（よ）て。稍（しよ）の。數（かず）。入。人今茲正月廿一日（にんこんしやうげつにじつにいちにち）。免（ま）れ。死（し）厄（やく）あり。折（せ）奴家（にやうけ）の。美（み）を知る。救（すく）ひ。思（おも）ひ。命（いのち）數（かず）既（すで）に。海（うみ）の。定業（じやうごう）。争（ま）何（なに）せん。本意（ほんい）。不（ふ）嫌（けん）。又（また）身（み）。奸黨（けんたう）。毒（どく）惡（あく）諛（う）詐（さ）。中（ちゆう）。究（きゆう）屈（くつ）の。罪（つみ）。死（し）。促（う）。白刃（はくにん）頭（かぶ）。位（ゐ）。至（いた）。今日（けふ）。我（われ）。和（わ）。子（こ）。の。死（し）。を。救（すく）。ひ。奶（ちやう）の。慈（じ）。恩（おん）。報（はう）。始（はじめ）。終（はつ）。年（とし）。來（きた）。做（しよ）。我（われ）。陰（いん）。徳（とく）。空（くう）。あ。ん。と。尋（たづ）。思（おも）。頭（かぶ）。着（ちやく）。屬（ぞく）。の。野（の）。狐（きつね）。と。召（めい）。聚（く）。合（ごう）。計（けい）。畧（りやく）。と。説（せつ）。示（し）。奴家（にやうけ）。即（すなは）。越（こ）。後（ご）。長（ちやう）。尾（お）。家（け）。の。老（らう）。夫（ふ）。人（にん）。服（ふく）。殿（てん）。身（み）。と。棄（す）。下（くだ）。着（ちやく）。屬（ぞく）。の。百（ひやく）。十（じゆう）。數（すう）。個（こ）。の。伴（ばん）。當（たう）。打（た）。根（ね）。角（かく）。谷（こく）。中（ちゆう）。三（さん）。竹（たけ）。を。罵（のの）。罵（のの）。一人（ひとり）。七（しち）。千（せん）。の。満（まん）。志（し）。願（げん）。成（じやう）。就（じゆう）。の。け。折（せ）。昔（せき）。字（じ）。育（よく）。和（わ）。子（こ）。を。救（すく）。ひ。舊（きゆう）。恩（おん）。答（た）。一（ひと）。事（こと）。兩（りやう）。用（りやう）。の。鉄（てつ）。く。竹（たけ）。か。と。情（じやう）。告（こ）。長（ちやう）。談（だん）。久（きゆう）。話（わ）。を。孝（かう）。嗣（し）。つ。果（くわ）。て。感（かん）。涙（なみだ）。坐（ざ）。吐（と）。む。一（ひと）。雨（あめ）。時（とき）。答（た）。思（おも）。く。嘆（なげ）。賞（しょう）。通（つう）。微（ゐ）。妙（めう）。汝（なんぢ）。の。方（かた）。便（べん）。衛（ゑい）。の。ひ。と。る

か。我総角より比親の所を汝の事なり故に逐電を往方へ今も知れざるを思ひし。思ひ死をその身非人異類を賢人貞女も及ぶべし陰徳善行我與の再生の恩あり。開も亡母の慈善の餘徳世に復るる幸なるを稱え感謝の堪ざり。然に涯のありけり。その時にも親兵衛の頭を低く黙然として在りけり。徐に貌を更めて政木狐のうら高にて物千載有りぬれ神に通して靈あり。和漢の例を以て汝の命長きも亦怪む。足るぬもその身既に一十年の長壽は迫るる靈狐も。曩も河鯉の家の養育の下に。子と産む其比に九百八十許歳を。従てその身の異類とも物老死に經紅燭。有る身より有るか。然も有りぬれぬ。と詰む。政木の所を。宣する。約莫天地の清氣の稱。長壽を有るぬれぬ。その身老て又廻り百歳を母の血氣復して情慾も亦始に異る。奴家の連添に雄狐の老て死せし又外より入敷。其の來ぬも十の數。抑狐の陰類を群居せぬ。のれに牝牡と栖る。その故に唐山

か。文字の狐を狐。狐の即狐の義を群居するのよも取れり。要するに教言。その身の與に釋迦の説經孔子の語道に似たりか。と。吻々として笑ひ親兵衛。頭を低く黙然として。又問詰む。汝の雄狐の死せし比。靈狐の田地へ入る。欲多。情に割に慈の林。慈善の旨とせし。後暗に初に。お係の河鯉生を救んと。と。形貌を變化して谷中二の愚。是機變の術あり。機變の神佛の憎む所。事小邪魔の入り。所以に愚。愚機變の心報也。恐慎む。靈狐の所。似けざる。や且汝が河鯉生未贈る。兩刀の原河鯉の什物とも。既に没官せられ。惜地小奪合する。開の竊盜の所。似て快らぬ。亦是故あり。飲と詰む。政木の含笑で理論。愛不。然も。機變も私慾の與。或世の與。君父の與。其の罪。因人の枉死。救ひ一機變の佛説。善巧方便孔子の教。直を擧て。父子の為。子も亦。為の隱。直と其中に在り。これ小意。奴家の詭計。恩義の與。是る。神佛の與。

の下。又孝嗣主の両刀の實の没官せられし根角谷中。私慾を奪ち收め置るを。  
 復して未だ返らざるを頼み所は依りて。心志然でも僻まざる親兵衛  
 衛又點頭て耳新を論辨分明理のまばらさ。咱們及及及び。と譽る。政本を推  
 禁めて然る旨は奴家の知り。親身世界十人。先八犬士の隨一人神女の真助成長の  
 奇童をあてまつる。折奴家のを猜し。然る親身の懐中天地の圖  
 兩國の仁字の靈玉の九庸の野狐。非如長壽を有らざるも。機向ののど克  
 本形と頭を。身の幸い。はもる。既小靈視の數入の心。毫も邪る。是を證據  
 る。氣の身。來歴。具考。方絶。不忍。地。河鯉。腋。子。信。と。身  
 事の顛末を解し。知て。馬。思。情。地。安。房。上。總。城。墮。土。神。速。と。相。上  
 せ。那。里。の。安。否。を。問。試。入。り。異。變。あり。親。身。の。知。り。の。親。兵。衛。登。見。を  
 放。ち。て。開。け。何。事。を。知。ら。ず。快。く。平。ね。所。ま。は。と。問。答。然。る。親。身。の。主。君。疑

猛可の遊歴の暇を賜ひ。素より邪魔の所為か。その故の箇様々。逆將葛田素藤の  
 妖尼姉椿が幫助と。身夜館山の城。襲る。折城の頭人。登桐山八良干の生  
 拘。田。税。戸。賀。九。郎。逸。時。と。古。屋。八。郎。景。能。の。敵。の。罟。を。殺。用。に。俱。他。御。走。り。事。景。素  
 より里見殿。荒川兵庫助清澄と討隊の大將と。館山の城を攻伐。妙椿が幻  
 術。魔。風。を。起。し。寄。隊。を。破。り。浦。安。半。助。友。勝。を。俘。る。事。這。夜。荒。川。清  
 澄。埋。兵。を。も。つ。夜。敷。の。兇。黨。礮。時。願。八。奧。利。根。之。介。們。を。生。拘。り。妙。椿。が。幻  
 術。を。も。つ。件。の。三。賊。と。騙。累。り。事。の。後。荒。磯。南。弥。六。と。安。西。末。介。と。情。地。不。謀。り。く。  
 素藤と刺んと。敵城小入。戦殺せ。事。比。又。里。見。殿。日。義。土。中。埋。措。せ。親。兵。衛  
 が。仁。字。の。玉。と。清。澄。小。貸。ん。と。穿。さ。せ。の。瓶。の。あ。り。て。玉。の。子。れ。爰。始。て。感。醒。後  
 悔。の。心。あり。比。又。妙。椿。の。稻。村。の。城。小。借。來。て。濱。路。姫。と。擡。擡。ひ。走。り。去。ん。と。路。伏。姫。の  
 神。靈。の。妙。椿。と。蹴。仆。し。姫。と。救。ひ。て。一。霎。時。富。山。お。て。妙。椿。の。妖。書。の。及。假。名。鬼。が

寛魂の事親兵衛一毫の行はざるまじり那妙椿が幻術を以て里見殿を疑せし事  
 顔末と見告ぐ。稲村へ遣ひ遣ひの里見殿と听ゆ。慚愧後悔大なるを發  
 崎十一郎照文と姥雪與四郎們を使て快親兵衛を召かして素藤妙椿們を對治せ  
 ざる折をも餘の士大士の在外をも涉獵せ共侶を招き聚合んと欲し評議區々  
 龍田の城内にも亦鷓鴣の奇異あり老侯那意を精しつ。隨即照文と與四郎を  
 稲村の城遣ひの君臣の便宜と照文と與四郎の君侯の仰と奉り去向を異し  
 船路より益可不起行の事趣の餘一事も送漏さる。崖略を解しと發崎姥雪四個  
 使价の稲村の城と立去りて便宜の浦より飛出を去ける遠もあらず。昨日の  
 ろのゆゑと生る詞の未だ未だ辯舌水の流るる疑ふも中なれ親兵衛の執し  
 膝を拍鳴りし奇の妙の汝の忠告倘の言を听さる我の他御と偏歴して再叛の賊  
 素藤們を討捕る便りも思ひしを幸多ると連の稱をく已まらり。

第百七回 恩小答く化龍升天を示す  
 津を向く犬童風濤小悩む

登時大江親兵衛の孝嗣おうち向ひ河鯉主今听れど上總亦復賊乱あり。腹  
 立一に館山の三番士們が阿容々々と果敢る城を攻陥され一個の敵小生拘りし兩  
 個の逃る不覚さ又歎いた我君の死疑ひを解せれ急小仁を召りへて又素藤と伐  
 せん。欲りぬと听ゆる。一條の面目あり畢竟我身の枉危の妙椿より妖尼の幻術  
 より出るを我思慮淺くて今も悟れ又我犯ち罪を免れと解れて君侯の醒めり  
 伏姫神の真助ある。是小至り々肇て知り。咱們富山小在り一日伏姫神の示現よりて  
 知る。正のるり小始は劣る我智と思ひ馮む仁字の靈王も裏小自然と土中と出て  
 我懐小入りける。訴まると小由りて影護く思ひ小開も那瓶を發れ。無りよと知召  
 る。異日稟一解し證據あり。恰とい恰と云造化の默契妙なる。遮莫素藤が復

叛<sup>そ</sup>に<sup>し</sup>と<sup>も</sup>知<sup>ら</sup>ず<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ぶ<sup>さ</sup>て<sup>己</sup>ん<sup>今</sup>その<sup>事</sup>と<sup>所</sup>き<sup>き</sup>。箱<sup>はこ</sup>村<sup>むら</sup>よ<sup>り</sup>の<sup>兒</sup>使<sup>し</sup>。蜚<sup>ひ</sup>崎<sup>さき</sup>。蛟<sup>せう</sup>雪<sup>せつ</sup>們<sup>ら</sup>の<sup>逢</sup>逢<sup>あ</sup>ひ<sup>も</sup>。  
 太<sup>た</sup>寺<sup>てら</sup>。館<sup>くわん</sup>山<sup>さん</sup>。赴<sup>しゆ</sup>死<sup>し</sup>。兇<sup>けう</sup>徒<sup>と</sup>を<sup>送</sup>送<sup>う</sup>く<sup>討</sup>捕<sup>と</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>を<sup>恩</sup>赦<sup>しや</sup>の<sup>折</sup>東<sup>とう</sup>の<sup>豊</sup>豊<sup>ゆ</sup>が  
 意<sup>い</sup>見<sup>けん</sup>と<sup>演</sup>演<sup>えん</sup>て<sup>死</sup>刑<sup>けい</sup>を<sup>薦</sup>薦<sup>め</sup>。京<sup>きやう</sup>を<sup>一</sup>一<sup>酒</sup>酒<sup>家</sup>。單<sup>だん</sup>の<sup>議</sup>議<sup>ぎ</sup>を<sup>否</sup>否<sup>く</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>復<sup>ふく</sup>叛<sup>はん</sup>と<sup>思</sup>思<sup>ひ</sup>。さ<sup>り</sup>。あ<sup>ね</sup>も<sup>も</sup>。饒<sup>にぎ</sup>ま<sup>り</sup>。逆<sup>さか</sup>賊<sup>せき</sup>を<sup>誅</sup>誅<sup>せ</sup>さ<sup>す</sup>。  
 借<sup>か</sup>ら<sup>せ</sup>。小<sup>せう</sup>臣<sup>しん</sup>が<sup>立</sup>立<sup>ち</sup>。地<sup>ち</sup>。誅<sup>しゆ</sup>戮<sup>りく</sup>と<sup>宣</sup>宣<sup>さ</sup>。去<sup>こ</sup>。一<sup>い</sup>。よ<sup>り</sup>。我<sup>わ</sup>君<sup>きみ</sup>も<sup>憑</sup>憑<sup>り</sup>。思<sup>おも</sup>食<sup>く</sup>。不<sup>ふ</sup>。粗<sup>そ</sup>。踏<sup>ふ</sup>。と<sup>人</sup>人<sup>か</sup>の<sup>り</sup>。  
 ま<sup>ま</sup>。せ<sup>せ</sup>ん<sup>我</sup>も<sup>亦</sup>始<sup>はじ</sup>よ<sup>り</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>が<sup>復</sup>復<sup>ふく</sup>叛<sup>はん</sup>と<sup>思</sup>思<sup>ひ</sup>。さ<sup>り</sup>。あ<sup>ね</sup>も<sup>も</sup>。饒<sup>にぎ</sup>ま<sup>り</sup>。逆<sup>さか</sup>賊<sup>せき</sup>を<sup>誅</sup>誅<sup>せ</sup>さ<sup>す</sup>。  
 去<sup>こ</sup>。残<sup>ざん</sup>。不<sup>ふ</sup>。克<sup>か</sup>。り<sup>。酒</sup>。主<sup>しゆ</sup>家<sup>か</sup>。長<sup>ちやう</sup>久<sup>きう</sup>の<sup>基</sup>基<sup>き</sup>を<sup>固</sup>固<sup>く</sup>。せ<sup>ん</sup>。為<sup>な</sup>。伏<sup>ふく</sup>。姫<sup>ひめ</sup>神<sup>かみ</sup>の<sup>訓</sup>訓<sup>し</sup>。繇<sup>しゆ</sup>。れ<sup>り</sup>。并<sup>へ</sup>。を<sup>世</sup>世<sup>の</sup>人<sup>の</sup>思<sup>おも</sup>。  
 去<sup>こ</sup>。君<sup>きみ</sup>。候<sup>こう</sup>。の<sup>あ</sup>。親<sup>おん</sup>。兵<sup>へい</sup>衛<sup>ゑ</sup>。三<sup>さん</sup>。那<sup>な</sup>。妖<sup>あや</sup>尼<sup>に</sup>。方<sup>かた</sup>。寸<sup>すん</sup>。と<sup>狂</sup>狂<sup>きやう</sup>。さ<sup>れ</sup>。る<sup>似</sup>。而<sup>に</sup>。非<sup>ひ</sup>。仁<sup>にん</sup>。政<sup>せい</sup>。を<sup>今</sup>今<sup>の</sup>。内<sup>うち</sup>。誚<sup>せう</sup>。は<sup>も</sup>。  
 さ<sup>さ</sup>。あ<sup>あ</sup>。ら<sup>ら</sup>ん<sup>仁</sup>者<sup>しや</sup>の<sup>真</sup>真<sup>ま</sup>。面<sup>めん</sup>。目<sup>め</sup>。を<sup>も</sup>。ゆ<sup>あ</sup>。ぬ<sup>臆</sup>。談<sup>だん</sup>。れ<sup>ば</sup>。齒<sup>は</sup>。小<sup>せう</sup>。掛<sup>か</sup>。る<sup>足</sup>足<sup>さ</sup>。れ<sup>ば</sup>。も<sup>恩</sup>恩<sup>を</sup>。思<sup>おも</sup>。ひ<sup>て</sup>。  
 再<sup>さい</sup>。叛<sup>はん</sup>。死<sup>し</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>が<sup>悖</sup>悖<sup>はい</sup>。逆<sup>さか</sup>。の<sup>罪</sup>罪<sup>ざい</sup>。先<sup>せん</sup>。度<sup>ど</sup>の<sup>類</sup>類<sup>るい</sup>。あ<sup>ら</sup>。む。曩<sup>なん</sup>。の<sup>那</sup>那<sup>な</sup>。妖<sup>あや</sup>尼<sup>に</sup>。誅<sup>しゆ</sup>。せ<sup>ら</sup>。り<sup>。一</sup>。惡<sup>あく</sup>。木<sup>ぼく</sup>。を<sup>も</sup>。  
 花<sup>はな</sup>。開<sup>ひら</sup>。く<sup>梢</sup>。芥<sup>かい</sup>。入<sup>い</sup>。る<sup>仁</sup>者<sup>しや</sup>の<sup>心</sup>心<sup>しん</sup>。再<sup>さい</sup>。度<sup>ど</sup>。不<sup>ふ</sup>。至<sup>し</sup>。く<sup>饒</sup>。饒<sup>にぎ</sup>ま<sup>り</sup>。の<sup>放</sup>放<sup>はな</sup>。く<sup>山</sup>。還<sup>えん</sup>。去<sup>こ</sup>。一<sup>い</sup>。虎<sup>こ</sup>。の<sup>人</sup>人<sup>の</sup>。と<sup>吹</sup>吹<sup>ふ</sup>。い<sup>と</sup>。  
 屠<sup>と</sup>。る<sup>同</sup>。仁<sup>にん</sup>。者<sup>しや</sup>。と<sup>の</sup>。心<sup>しん</sup>。も<sup>忍</sup>。ぶ<sup>べ</sup>。く<sup>も</sup>。縦<sup>たて</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>。先<sup>せん</sup>。度<sup>ど</sup>。不<sup>ふ</sup>。倍<sup>ばい</sup>。く<sup>。幾</sup>。千<sup>せん</sup>。百<sup>ひやく</sup>。人<sup>にん</sup>。有<sup>あ</sup>。龍<sup>りゆう</sup>。と<sup>も</sup>。又<sup>また</sup>。

活<sup>くわく</sup>。き<sup>。捉</sup>。ん<sup>。の</sup>。囊<sup>ふくろ</sup>。の<sup>物</sup>物<sup>もの</sup>を<sup>探</sup>探<sup>さ</sup>。る<sup>。易</sup>。易<sup>やす</sup>。く<sup>。和</sup>。殿<sup>てん</sup>。一<sup>いつ</sup>。辟<sup>へき</sup>。月<sup>げつ</sup>。の<sup>力</sup>力<sup>ちから</sup>を<sup>勅</sup>勅<sup>し</sup>。ま<sup>。義</sup>。俠<sup>ぎあ</sup>。の<sup>意</sup>意<sup>い</sup>。あ<sup>。る</sup>。あ<sup>。る</sup>。が。  
 卒<sup>そつ</sup>。の<sup>伴</sup>伴<sup>ばん</sup>。と<sup>。と</sup>。ら<sup>。れ</sup>。て<sup>。孝</sup>。嗣<sup>こう</sup>。一<sup>いつ</sup>。談<sup>だん</sup>。及<sup>およ</sup>。び<sup>。も</sup>。適<sup>てき</sup>。要<sup>やう</sup>。の<sup>辨</sup>辨<sup>べん</sup>。才<sup>さい</sup>。智<sup>ち</sup>。勇<sup>ゆう</sup>。金<sup>きん</sup>。玉<sup>ぎよく</sup>。成<sup>せい</sup>。ま<sup>。言</sup>。毎<sup>まい</sup>。感<sup>かん</sup>。服<sup>ふく</sup>。せ<sup>。ま</sup>。  
 と<sup>の</sup>。と<sup>。る</sup>。小<sup>せう</sup>。生<sup>せい</sup>。既<sup>すで</sup>。知<sup>ち</sup>。己<sup>こ</sup>。の<sup>資</sup>資<sup>すけ</sup>。仰<sup>おほ</sup>。む。進<sup>しん</sup>。退<sup>たい</sup>。を<sup>儘</sup>儘<sup>まま</sup>。と<sup>。欲</sup>。火<sup>か</sup>。を<sup>踏</sup>踏<sup>ふ</sup>。と<sup>。水</sup>。水<sup>みづ</sup>。没<sup>ぼつ</sup>。と<sup>。も</sup>。從<sup>したが</sup>。う<sup>。ん</sup>。や。  
 俱<sup>く</sup>。一<sup>いつ</sup>。と<sup>。憐</sup>。れ<sup>。む</sup>。と<sup>。政</sup>。木<sup>せいぼく</sup>。の<sup>推</sup>推<sup>おし</sup>。禁<sup>きん</sup>。め<sup>。又</sup>。親<sup>おん</sup>。兵<sup>へい</sup>衛<sup>ゑ</sup>。の<sup>向</sup>向<sup>むか</sup>。ひ<sup>。喃</sup>。犬<sup>いぬ</sup>。江<sup>え</sup>。主<sup>しゆ</sup>。授<sup>じゆ</sup>。兵<sup>へい</sup>卒<sup>そつ</sup>。ま<sup>。ら</sup>。ぶ<sup>。ど</sup>。も<sup>。死</sup>。死<sup>し</sup>。  
 身<sup>み</sup>。那<sup>な</sup>。里<sup>り</sup>。不<sup>ふ</sup>。到<sup>たう</sup>。り<sup>。の</sup>。素<sup>そ</sup>藤<sup>とう</sup>。們<sup>ら</sup>。の<sup>先</sup>先<sup>せん</sup>。度<sup>ど</sup>。不<sup>ふ</sup>。懲<sup>ちやう</sup>。り<sup>。て</sup>。も<sup>。と</sup>。出<sup>で</sup>。ま<sup>。者</sup>者<sup>もの</sup>。う<sup>。ん</sup>。妙<sup>めう</sup>。椿<sup>しゆん</sup>。の<sup>同</sup>。下<sup>げ</sup>。か<sup>。他</sup>。他<sup>た</sup>。も<sup>。亦</sup>。亦<sup>また</sup>。  
 靈<sup>れい</sup>。玉<sup>ぎよく</sup>。不<sup>ふ</sup>。怕<sup>おそ</sup>。れ<sup>。て</sup>。敵<sup>てき</sup>。を<sup>と</sup>。い<sup>。ら</sup>。む<sup>。と</sup>。も<sup>。影</sup>。影<sup>かげ</sup>。を<sup>躲</sup>躲<sup>か</sup>。け<sup>。跡</sup>。跡<sup>あと</sup>。を<sup>埋</sup>埋<sup>うめ</sup>。て<sup>。風</sup>。風<sup>かぜ</sup>。小<sup>せう</sup>。焔<sup>えん</sup>。の<sup>滅</sup>滅<sup>めつ</sup>。を<sup>如</sup>如<sup>ごと</sup>。く<sup>。忽</sup>。然<sup>ぜん</sup>。と<sup>。一</sup>。と<sup>。逃</sup>。逃<sup>にげ</sup>。  
 亡<sup>な</sup>。る<sup>。智</sup>。智<sup>ち</sup>。勇<sup>ゆう</sup>。も<sup>施</sup>施<sup>せ</sup>。す<sup>。所</sup>。あ<sup>。ら</sup>。む<sup>。又</sup>。妖<sup>あや</sup>。辭<sup>じ</sup>。を<sup>送</sup>送<sup>う</sup>。く<sup>。と</sup>。あ<sup>。ら</sup>。む<sup>。ん</sup>。這<sup>えん</sup>。義<sup>ぎ</sup>。を<sup>思</sup>思<sup>おも</sup>。ひ<sup>。の</sup>。ま<sup>。と</sup>。心<sup>しん</sup>。屬<sup>じゆく</sup>。れ<sup>。ば</sup>。親<sup>おん</sup>。  
 兵<sup>へい</sup>衛<sup>ゑ</sup>。の<sup>答</sup>答<sup>こた</sup>。難<sup>なん</sup>。々<sup>。沈</sup>。吟<sup>げん</sup>。と<sup>。現</sup>。現<sup>げん</sup>。い<sup>。ら</sup>。れ<sup>。ば</sup>。定<sup>じやう</sup>。小<sup>せう</sup>。介<sup>けい</sup>。る<sup>。聲</sup>。聲<sup>せい</sup>。の<sup>三</sup>三<sup>さん</sup>。回<sup>かい</sup>。六<sup>りく</sup>。辟<sup>へき</sup>。月<sup>げつ</sup>。も<sup>あ</sup>。れ<sup>。目</sup>。目<sup>め</sup>。不<sup>ふ</sup>。あ<sup>。る</sup>。敵<sup>てき</sup>。を<sup>死</sup>。死<sup>し</sup>。  
 ら<sup>。敵</sup>。敵<sup>てき</sup>。を<sup>捕</sup>捕<sup>と</sup>。る<sup>。と</sup>。の<sup>か</sup>。く<sup>。も</sup>。あ<sup>。ら</sup>。む<sup>。他</sup>。他<sup>た</sup>。尚<sup>しやう</sup>。五<sup>ご</sup>。遁<sup>とん</sup>。の<sup>術</sup>術<sup>じゆつ</sup>。を<sup>と</sup>。て<sup>。見</sup>。見<sup>けん</sup>。ま<sup>。る</sup>。り<sup>。る</sup>。争<sup>そう</sup>。何<sup>なに</sup>。せん<sup>。并</sup>。并<sup>へい</sup>。を<sup>極</sup>極<sup>ごく</sup>。雪<sup>せつ</sup>。を<sup>術</sup>。術<sup>じゆつ</sup>。  
 ら<sup>。ら</sup>。む<sup>。と</sup>。わ<sup>。と</sup>。問<sup>もん</sup>。へ<sup>。政</sup>。木<sup>せいぼく</sup>。の<sup>點</sup>點<sup>てん</sup>。頭<sup>とう</sup>。を<sup>然</sup>然<sup>ぜん</sup>。と<sup>。と</sup>。の<sup>る</sup>る<sup>。れ</sup>。才<sup>さい</sup>。も<sup>不</sup>不<sup>ふ</sup>。才<sup>さい</sup>。も<sup>人</sup>人<sup>の</sup>。各<sup>かく</sup>。各<sup>かく</sup>。の<sup>名</sup>名<sup>な</sup>。を<sup>言</sup>言<sup>い</sup>。ふ<sup>。あ</sup>。り<sup>。得</sup>。得<sup>とく</sup>。る<sup>。事</sup>事<sup>こと</sup>。あ<sup>。り</sup>。  
 あ<sup>。の</sup>。故<sup>こ</sup>。小<sup>せう</sup>。子<sup>し</sup>。聖<sup>せい</sup>。人<sup>にん</sup>。の<sup>鋤</sup>鋤<sup>そ</sup>。壞<sup>くわい</sup>。へ<sup>。枝</sup>。枝<sup>えだ</sup>。の<sup>も</sup>。老<sup>らう</sup>。圃<sup>ぼ</sup>。の<sup>問</sup>問<sup>もん</sup>。へ<sup>。と</sup>。宣<sup>せん</sup>。へ<sup>。る</sup>。あ<sup>。ん</sup>。身<sup>み</sup>。不<sup>ふ</sup>。助<sup>すけ</sup>。言<sup>げん</sup>。の<sup>鳥</sup>鳥<sup>とり</sup>。許<sup>もと</sup>。る<sup>。が</sup>。ら。

龍の路の蛇を知らぬ那妙椿が幻術を破りて捕捕ま欲せ先他が来歴出  
 処と具不知るあるべしと云ふ親兵衛飲ひてそ亦酒を死珠説るん快く聞き  
 欲しけれと云て膝を找れば孝嗣も亦うち合笑れて俱お耳を傾ける登時政水は鼓  
 低めて然る又一條の昔話と云て大江山の豫より傳言ありと思ひ合ふゆも伝  
 き抑安房國長狹郡富山の麓より程遠くぬ村落あり大懸と喚做き寒村ありそ  
 村這名と云る以前文安四年丁卯の秋伏姫七歳少きゆ比件の村の貧し  
 民の字と枝平と喚るが年来畜ける牝狗ありけり這秋その狗兒子を産ける小只一隻子  
 中く牝狗を生れてしまふ幾日も歴る一宵そ母狗の狼小吠れてけり離狗のまじ目  
 たお開る蒙るる比るれい養食ぶぐもあつり奇し夜毎小牝狸の富山の方より出  
 来て乳を離狗の息子に与へて餓も死さるるを最大にきり一時の事ゆえて瀧田徴れ  
 義実王子寵養せられ八房の天即是きそゆは件の八房の毒婦玉梓が後身

は八里見小害あるゆり復行者の利益を玉梓が悪業終つ小解脱八房の天も  
 亦伏姫讀經の功德ありて俱お菩提入るゆり初八房の天と云る狸見あり亦  
 玉梓の餘然黄縁りけるは是のいも得脱甘今も里見殿と怨めり当初  
 義実主八房の天と見あり折狸見の乳をりて養れる事任々と听ひて字書小  
 狸の天後八里見の者るれは是里見の天と云る因縁ありと宣ひ小只大と云る鐘  
 愛して狸の事い竟お向れを狸見の亦その功をもて狐のてく小祠を造りて祭らまんと  
 思ひ小然る沙汰るれは啖醋の堪む富山を立去りて上總國夷瀨郡普善村の  
 程遠く及諏訪の神の社頭より老樟樹の榎小栖ひて那里に在ると三十餘年便宜  
 もあり八國王御父子小崇と做さんと思ひ玉梓が餘然お惹る是宿因の悪心なり  
 憊而甚田素藤が兩個の愛妾と喪ひて哀慕鬱悒不堪きり折他のその虚中漏入  
 する八百比丘尼の綽號と冒し妙椿との女僧小変化して遂に素藤と喚誘する非

分の婚嫁整て素藤酷く國王に恨み。叛逆龍城兩度西軍を克今日迄は。るれ初妙椿狸見神女の威靈と憚り。軍陣中世世より素藤が死に饒さ。を遠く追放せられ後妙椿のれも亦我妙術にて義成主と大江の胸に狂し素藤。們を救ひさど実一落し説誇り。素藤のれも亦我妙術にて義成主と大江の胸に狂し素藤。身の慈善と因縁とせむ。吐下過に熱微り。開の小人の本性的に國の安危と定る。最も大事の所行る。良將勇士のふも。胆意と妖怪を奪る。あるは。君子。と欺く。陷る。彼ら。怨む。と。奴家の思ひは。然り。又妙椿の那反間の。邪術を。身も他郷へ退け。敢又憚ら。充徒の軍師を。寄隊破。る。風を起し。沙を飛。樹を覆。その勢。當る。虎より。烈かり。是も亦。然る所以。他の羅龍の王と持。その玉の絡の腹より。頭れ。室員。上古無仁天皇の。宛時丹波園素田郡の。入と。羅龍が家の飼。犬の名。足往と喚。彼ら。

このぬあひ。這大一日。絡を見て。立地。噬殺。一。絡の腹内。八尺瓊の勾玉ありけり。羅龍表の。よと。訴。稟して。玉と。朝廷。獻り。返。這玉。今。石上の神宮。あり。と。書紀。無仁紀。小載。られる。無仁帝の。宛時。今。後土御門院の。お至。て。千二百許。年。世。戰。國。あり。悲。み。任。珍奇の神宝も馬蹄の塵。埋。れ。有。と。知る。人。稀。り。妙椿狸見。見。出。て。只。顧。愛。玩。秘。藏。す。初。羅龍。表。無仁帝。獻。り。ける。東西。の。名。つ。け。羅龍。表。の。玉。と。の。絡。と。狸。の。等。類。也。穴。居。と。雨。を。避。け。風。を。知。る。者。な。れ。昔。も。今。も。その。皮。を。鍛。匠。の。吹。草。用。ひ。ら。る。風。と。出。る。理。あり。妙椿。件。の。玉。の。呪。文。と。唱。て。勁。風。起。す。極。め。効。驗。あり。遮。莫。那。身。の。絡。も。等。し。狸。見。を。信。ず。心。を。忘。れ。て。足。往。の。天。小。殺。され。け。る。絡。の。腹。より。出。玉。の。賊。徒。と。資。け。寄。隊。を。破。る。室。員。小。後。竟。小。大。士。小。對。治。せ。る。死。兆。を。悟。ら。ば。宣。不。鳴。呼。の。所。行。か。然。り。狸。見。の。智。淺。く。野。狐。子。及。ま。は。是。等。小。由。て。も。知。られ。信。り。身。他。を。對。治。す。件。の。玉。を。獲。め。後。小。必。用。る。と。あ。ん。等。閑。者。を。あ。ん。と。妙椿。

られたる者もあまやう。さてまたたててある。い。おめい。あま。が未歴出外の崖畧を信じて又館山城まらち入る初の度と同たが非如身身の武  
勇と。素藤の緝捕易くとも。妙椿の少知れて他を走。争何せん。信  
れ敵不知る。情入と妙とま。折情入る。館山城の副門の箇様々。の  
目標あり其処の昔の城主の地道を。一條の脱路。後千虫の石とて。前後の  
口を塞。今開と知れる人。身が萬夫の。除く。容易か。其首  
より入ると欲する折の箇様々。の。筋力を用ひ。出入極めて隨意る。  
ん。後堂に赴いて妙椿狸見。撞見。力の。征。折の箇様々。の。信々  
做。妙椿が邪術。忽地。破れて他。腹心。黄緑。玉梓。餘。解。然。妙  
妙椿が。身。朽木の。倒る。像。本形。則。是。玉梓。臨終の。悪念。塵。住。め。煙  
煙の。似。滅。亡。後。々。も。出。る。見。の。證。据。併。役。行。者。の。利。益。を。測。る。よ。も  
あ。ん。真。助。と。仰。は。る。あ。の。餘。の。の。告。も。身。の。智。計。武。勇。の。功。あ。ん。と。疑。ひ。り。と

親兵衛。且。感。且。終。勇氣。日。屬。彌。増。腕。を。憶。振。り。定。め。約。々。有。縁。の  
忠告。機。を。查。一。隱。微。と。明。言。皆。意。表。出。る。と。听。我。身。今。富。山。在。り。伏。姫  
神。の。示。現。教。諭。を。兼。る。小。異。る。老。媪。の。素。是。異。類。と。い。ふ。の。智。廣。大。菩。薩。の。一  
の。趣。を。明。教。を。從。さ。ん。や。後。へ。と。又。孝。嗣。の。政。本。の。老。媪。の。向。い。て。と  
具。る。敵。地。の。案。内。側。聞。せ。我。も。亦。大。江。ま。後。千。里。と。ま。る。蒼。蠅。の。驥。尾。小。附。く。功  
あ。ん。又。か。る。末。て。耐。入。軍。少。の。程。を。答。ね。か。の。政。本。の。ゆ。め。否。と。よ。奴。家。の。年。末。の。陰。徳。の  
功。課。よ。り。天。帝。の。恩。教。と。兼。り。け。さ。る。狐。龍。の。做。り。は。れ。今。升。天。下。界。在。る。と  
遇。ふ。別。の。時。を。あ。れ。と。告。る。孝。嗣。の。何。ぞ。何。ぞ。の。狐。龍。の。做。ら  
る。や。と。問。へ。又。親。兵。衛。の。俱。小。眉。根。と。ち。頻。早。め。我。聞。く。龍。の。神。物。之。和。漢。今。昔。世。の。人。々  
そ。の。名。を。知。れ。も。形。と。見。ん。然。る。と。唐。山。の。史。傳。の。昔。秦。龍。氏。の。龍。と。屠。り。后。羿。龍。と。射。る。の  
説。の。是。と。て。抱。朴。子。の。蛇。龍。と。一。種。の。蛇。も。千。載。と。歷。年。の。の。化。と。龍。の。做。る。い。れ

のりていひがけひべん  
 と陸田が埤雅なる非と辨を龍のあざう龍と蛇と化して做れる真龍を  
 去并と亦稱て龍といひ僻言なりといふ因て我仁按する所の人の龍といひ素素なる是  
 物あり星と龍と馬も亦龍と稱(蛟蛇蛇蜥蜴)といふ佳れ種類異なるも真の龍と  
 まく直の龍といふの蓋星氣とまふ庶勿論形状中て飲食するのあは天地陰  
 陽二氣の升降雲と起し雨と降し春見れて冬蟄ま是を名けて龍と云和名豆豆とい  
 起の義も二氣の發起を取れるもの然とせし龍といふ蛟蛇蛇蜥蜴の種類の  
 の真の龍のあはるるも蛟蛇蛇の老る形状画る龍に似たり是れ真の  
 龍なるも化して龍と做るとも據るるあはる類ある化して龍なるも説の  
 酒家言傳聞多し知るも真の教よまほと問へ政水の點頭て現真龍のえ説の  
 古人未發の明辨を學者の惑を醒ま足れり奴家が龍といひ名は問うて物異  
 真の龍なるも陰陽二氣小從て雲を召び雨を行ふ然とる能のあはるは然とる狐の

その形状毫も龍に似されとて狐龍の説を疑ひの憚りなき親を信て疎と非とある  
 多なるも壁言田鼠と如鳥と禽獸の差別ありて状も大く異なるも田鼠化して如鳥なる  
 ると月今たえり又朽高木と螢火と非情有情の差別あり形の似るるあはるれと腐  
 草化して螢なる狐龍も亦れと同證文あり讀むは狐鳥許すべけれど所ぬれといひ  
 徐徐うち咳て按する奇事記の白驢山下の白狐有りと常山下を驚惶せり人  
 祛除と能りし唐の乾符の年其白狐忽一日温泉を穿て自浴する事須臾の間  
 雲蒸り露瀉漏れ狐の則白龍化して天を升りて去り後陰晴々折山本の人  
 白龍の山群を飛騰るを見おけり如此る事三年ありて忽一老父あり臨夜毎山の  
 前ふ哭けり人問て故と問へ老父答く我狐龍死ぬ故に哭く余とらそ何ぞ狐  
 龍といや老父の亦何の故か夜毎よ出て哭くやと問へ老父答て狐龍の身狐ありて  
 化して龍に成りぬると化して三年ありて必死を我の狐龍の子をよその人又問て狐も何

八代傳九車卷十三  
 七  
 七

龍と能化し。龍と化れる。この狐の西方の生氣と宣して生れり。因て全身白色  
 あり。衆と遊ばせ。近處の狐と居る。驪山下の託を。千餘年後。偶雌龍と合り。上  
 天を知らず。遂に命と龍と為せり。亦猶人間の凡夫なり。聖人の成るを。且と言訖て滅  
 免と諳記の随誦する聲。清亮なり。跌宕を。理義分明。不修えけり。  
 作者曰。狐龍の事。格致鏡原卷の八十八。獸類狐怪の部也。又奇事記に。援て  
 載る。作者の傳り。設けし。昔より和漢の博士。龍を辨する者。多し。狐龍  
 及ぶ。見せ。故に。借用を。看官原文を知る。亦復これと。合し。見せ。一  
 登時大江親兵衛の孝嗣と共侶。せら。と。所果。且。羞。且。然。ひ。政木の老嫗。演  
 賢者の一字の師を。も。閑。思。ふ。と。汝。素。是。異。類。一。博。識。視。聽。を  
 敬。馬。我。及。及。所。不。中。也。又。逢。自。中。六。詞。敵。不。せ。ま。く。ほ。一。死。今。遇。て。今。別  
 れ。別。れ。遇。て。う。と。空。薄。縁。と。と。慨。け。れ。と。不。嫁。れ。俱。孝。嗣。の。慨。然。と。嗟。歎。

昔の姪母假ゆ。王從けり。又我再生の因。人との思ひぬ。その勢ひも。ゆへに。も。盡  
 さ。盡る。値遇の縁留め難々。哀別の涙の雨。雲を召ぶ。龍のその身を。做。果。々。千  
 尋底成。大洋。潜。も。後。長。々。ぬ。命。三。稔。不。終。る。ま。尚。忘。れ。春。秋。の。折。々。毎。小  
 訪。來。り。悲。し。ぬ。お。と。ち。歎。け。政。木。の。慰。難。々。一。霎。時。目。水。洗。衣。の。袖。と。斂  
 め。て。泣。ふ。喃。和。子。女。々。々。に。と。る。宜。ひ。そ。非。如。奴。家。の。在。る。も。大。江。主。不。從。て。る。月。七。個。の  
 俊。傑。と。友。垣。結。び。封。助。と。ぬ。仁。義。德。澤。世。稀。る。那。明。君。不。仕。あ。ひ。る。名。坂。竹  
 薄。不。誌。され。ぬ。ゆ。び。家。と。興。い。ん。今。より。と。三。稔。の。後。上。總。國。夷。瀟。郡。雜。色。村。石  
 降。り。石。の。形。の。蟠。る。龍。似。る。を。見。ぬ。我。成。る。果。と。知。り。ぬ。願。ひ。大。江。親。兵。衛  
 主。儘。一。ま。る。る。和。子。の。上。直。不。過。ぬ。向。胆。の。心。足。ら。ぬ。幾。番。も。叱。り。懲。り。杖。と。る。  
 看。も。る。り。て。武。丈。の。方。道。才。地。あ。ひ。か。今。の。時。來。ぬ。名。殘。惜。し。ゆ。と。と。外。面。へ。走。り  
 出。り。松。枝。不。を。掛。け。内。り。と。立。候。と。見。れ。蜚。鳥。の。似。く。身。と。翔。ら。し。程。近。く。不。忍。心。の



八代車し車巻三三三四

共九

文安堂藏



ちすの  
池水と巻騰  
あり  
あき異龍洪  
雨を降毛

政木茶店親兵衛復興孝嗣  
おたけのりてんかき  
おたけのりてんかき

八代車し車巻三三三四

文安堂藏

池へ突と跳入りけり。時小雲湧り雨降そ。勅風天地を黒く別ぬ震動  
 雷電常闇ふ似る。中龍火の光を向上れば白龍雲間頭れて首を伸つ尾を  
 垂れり。巻を騰り池水の雨とる。疾死勢ひ蓮葉断離れ細鱗放下させ  
 足下小踊もまくりけり。折親兵衛と孝嗣の狂風暴雨小老媪が茶店の葭賣  
 登見茶器もも東西一箇も吹攪れ。雨を避る小樹を松の樹蔭身と  
 倚せて俱小雲存る。奇一死の最中劇し大雨の只這松の四下の一滴も降  
 ざれば幸ひわぐ濡もせ。衣も濕吹氣と受され。亦狐龍のあらりての所  
 べと感嘆。雙立く在りける程。姑且く雲斂り雨歇て風雷餘波なり。長  
 此四月の天晴。旦て夕陽西。尚残る。然親兵衛も孝嗣も狐龍の奇特疑ひ釋て  
 送。他が噂を。路の乾く。等程。親兵衛備を。河鯉生。剛才化龍の升  
 天と觀。思合。事。昔年嘉吉の。聞。戰。破。結。城。の。城。郭。没。落。の。折。我。老

候義實朝臣當時尚弱冠あり。里見又太郎と喚れり。選訓に従ひ九死を免と  
 氏元貞の主従三騎安房と投て走りぬ。程小落城より第三の黄昏時侯相模  
 團御浦郡前採の浦小船と討め。津を急ぎ。折白龍海底より頭れ出。南と  
 去。騰り去れり。恙る祥瑞。義實安房。赴。幾日。あ。神  
 餘。與。義。兵。を。聚。合。て。逆。臣。山。下。定。包。と。誅。戮。し。そ。の。後。朝。夷。郡。平。館。多。麻。呂。小。五  
 郎。兵。衛。信。時。が。約。背。せ。と。討。夷。け。最。後。小。安。房。郡。館。山。の。城。主。は。安。西。景。連。と。戦  
 克。て。景。連。頭。顛。と。授。け。よ。り。義。實。安。房。と。平。均。し。四。郡。の。主。あり。ぬ。は。一。條。の  
 舊。話。の。酒。家。富。山。在。り。時。伏。姬。神。の。示。現。よ。り。て。粗。知。る。と。有。悠。々。今  
 我。們。の。孝。嗣。和。殿。が。舊。縁。有。狐。龍。の。升。天。と。目。撃。も。有。り。且。其。の。龍。を。辨。論。せ。け。は。も  
 新。舊。君。臣。一。致。の。事。也。且。義。實。朝。臣。の。前。採。の。浦。に。龍。の。升。天。を。見。ぬ。嘉。吉。元  
 年。四。月。十。八。日。の。夕。と。秋。夕。又。我。們。が。狐。龍。と。見。ぬ。今。日。文。明。十。五。年。四。月。中。の。二。日。を

その日聊違へども共の中旬を去る月日は夏暗合是のころに昔年我老侯の討滅  
あゆむに安西三郎大夫景連の安房の館山の城主なるは今の思臣大江親兵衛が討  
果さず欲し身叛賊甚毒田素藤の上総國夷瀟瀟館山の城に在り安房と上總  
と異なるれども共の館山と喚做したる城の名も亦同ト裕と思ひ恰をありの造化の照對あり  
似たり事吉兆とるを死致兩國河を快退れ船と央て上總へ渡え和殿の意見  
其麻をちと問へ孝嗣再議不及を聴くを前後同瑞討論合考寔ありあり。這  
回大功疑ひる一卒も俱れをんと東と投てて立立ける介程大江親兵衛の孝  
嗣を相伴ふ。兩國河原へ赴く程那里の雨のゆるぎける大地の乾る隨ゆる歩の  
運びの障りなれば思ひよりも来りけり。故ら日長は四月の天の暮んとし暮れ船で  
這兩國河の岸邊を船公の宿所呼んで悠々と相譚ふ船公は上總へいんと  
欲りしもの只今の風も強く潮も亦宜しきを意ふは這真夜半必追風あるの波の

上のりも船で世渡る我々も自由なるが常なれば急々と争何いせんせんとせらる。  
奥の坐席あり那里で甘坐れぬと早の商量数す。親兵衛心焦燥て外も船公を  
やと思へ船で立去り又孝嗣と共侶の便宜の出船と云ふを皆の事と相似り困り果て  
亦初の長が宿所かへり。漁村の柳風小麻非はて蓑衣乾去門の夕日影。苦屋の煙天小  
滅く友呼ぶ鷗浪小浴を或は甘兼葭の戦ふ処魚と踏む白路鷺見れ一葉繫る木の頭  
あち羽を曝き鷄鳴存の長汀弓の像く入江に續け浮洲似たり水濤建の仰て西  
南を眺むる夏の富士のまを装と更ぬを遙く東北を省れ翠の筑波尚霞を残り。  
武総兩國の都會あり海船多く猫と却り商魚那遠軒を比て世渡り易に福  
地あるありけり。然り又這河邊の三觀鼻と喚做き出崎あり。什麼何名由米を這名  
あると原る者官知らる所あり。約莫這水際小翹て規ると死の右富士左の筑波前川の  
葛西の曠野まで杏洲とく障るの多く只一覽を三箇の眺望あり。因て土人字しく二

觀鼻と唱へる。自昇の即方言也。猶出崎と云ふこと。然りまの玉崎の千里鏡と貸ま茶店  
 あり。飯と酒と粥と小店ありて。邊鄙に似げ多く執闘ひる。折々人許に立聚會。蠟見の  
 甘に附くが像。親兵衛と考嗣。今這出崎を過る程。并に那るやと。牙心と云ふ立  
 寄て。稠人を檢分りて。找て近づく見ふ。主僕と云ふ。老壯兩個似而非技。て人を  
 立せし膏茶と賣ま欲する。逆旅經紀人。中か年齢六十をり多らん  
 と云ふ。東人にて。年歳二十有餘。從者多し。王僕俱。遠山形。漆木綿の夾衣。うち  
 披りて。帶とせ。白袴の。積鼻禪と高く。野見宿。秘神方。撲傷折損。相瘡妙。萩野上。風相傳  
 像り。天朝。摘力鼻。祖野見。宿祿家。秘神方。撲傷折損。相瘡妙。萩野上。風相傳  
 精製と云ふ。子言と寫る。懺形。揉紙の。招牌を。真砂地。推植て。寄來。人。を。な。ら。し。め。り。

南總里見八犬傳卷十三之十四終

九編三

みまてし内

十三ノ四

萩野

勝石院

